

## 小学校におけるプログラミング教育はどうあればよいか —どのように位置付けてどのような力を育成するか—

主催：富山大学人間発達科学部 附属人間発達科学研究実践総合センター 学習環境研究部門

後援：日本デジタル教科書学会 富山県教育工学研究会

小学校におけるプログラミング教育について、新学習指導要領では、「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」を、各教科等の特質に応じて、計画的に実施することが示されています。

教育現場においては、このプログラミング教育をどのような教科等に位置付けて、子どもたちにどのような力を育成していけばよいのかについて、十分に検討する必要があります。そこで、標記の研究会を開催いたします。小学校等の教育現場の先生方、教員を目指す学生の皆さん、プログラミング教育に関心のある方のご参加をお待ちしております。

### 講師紹介

茨城大学 教育学部 准教授 小林 祐紀 氏



石川県公立小学校教諭を経て2015年より現職。専門は、教育工学、情報教育、ICTを活用した実践研究。小学校教諭のときには、子どもたちが対話的コミュニケーションを通じて学び合う授業を目指し、ICT機器を積極的に活用した授業を実践されていました。現在は、タブレット端末の有効活用等に関わる実践研究を進めるとともに、プログラミング教育に関する実践研究にも取り組まれ、「コンピューターを使わない小学校プログラミング教育“ルビィのぼうけん”で育む論理的思考」(翔泳社, 2017)を執筆・監修されています。

情報通信総合研究所 特別研究員 平井聡一郎 氏



古河市教育委員会参事兼課長を経て2017年より現職。総務省プログラミング教育事業推進会議委員、茨城大学非常勤講師。「小学校の『プログラミング授業』実況中継[教科別]2020年から必修のプログラミング教育はこうなる」(技術評論社, 2017)の監修をされるなど、小学校におけるプログラミング教育に関する第一人者でいらっしゃいます。全国各地で開催される学会、研究会、ワークショップ等で、小学校におけるプログラミング教育に関する指導を行われ、プログラミング教育の普及にご尽力されています。

【日 時】 平成29年12月2日(土) 14:00~17:00(受付13:30~)

【会 場】 富山大学人間発達科学部1棟1階112教室 (富山市五福3190)

【参加費】 無 料

【プログラム】 第1部 講演(小林 祐紀 氏) 14:05~15:05

「論理的思考力を育てるプログラミング教育とは」

第2部 ワークショップ(平井 聡一郎 氏) 15:20~16:50

「これならできる小学校におけるプログラミング教育」

(デジタル絵本作り、ロボットプログラミングなど、小学校におけるプログラミング教育の学習例を体験し、そのイメージをつかんでいただきます。必要な機材等はこちらで準備いたします。)

### 申込み方法

参加を希望される方は、電子メール等で、11月30日までに下の連絡先にお名前とご所属をお知らせください。(第2部の参加につきましては申込み順の50名までとなります。第1部と第2部のどちらかみの参加を希望される場合はその旨もお知らせください。)不明な点等につきましても、お気軽にお問い合わせください。

<連絡先> 電子メール hasegawa@edu.u-toyama.ac.jp TEL・FAX 076-445-6381  
〒930-8555 富山市五福3190 富山大学人間発達科学部

附属人間発達科学研究実践総合センター 長谷川 春生